

地域おこし協力隊通信 (No. 22) 種子島をタイムマシーンで旅した一日

写真① スイジガイ (右) ②イタリア製のバケツ (左上) ③縄文時代の地層から出てきた鉄の塊? (下段中) ④1000万年前の化石(下段左) ⑤ハマグリ(丸容器)これらは町内で拾ってきたモノです。

5月下旬の週末に地層の先生が来島されると聞き調査に同行させていただきました。調査場所は崖で、知らない道をグングンと進んだ先です。「えっ!ここ?」と崖の表面を削ってみると色や厚みが違う様々な地層が姿を現します。そんな中「アカホヤ」と呼ばれる一際目立つ地層があります。色はココナツカレーのような黄色で7300年前に大噴火した時の火山灰だそうです。時代を特定するのに適した層で縄文土器はその下から出土します。

調査開始から2分。「これが縄文土器。」と先生は早くも2つをゲットします。タケンコやアナゴを簡単に見つけられない私からすると「そんなに早く!?!」と有り難さを感じられ



ないまま手のひらの土器と対峙します。さりとて縄文土器。7300年前のヒトが作った器を感じようと何度もさすってみると、かすかな凹凸や曲線を感じる事ができ、種子島の大先輩と杯を交わせた気がしました。その他にはウミガメの足跡を見つけたり、ハマグリを取ったり、「天ぷらにできるかな?」とハマゼリを物色したりと大満足の午前中でした。

そして満腹の午後は東海岸へ。馬立の岩屋では「すごいやろ」としか言えなかった地層の成り立ちを教えていただき謎が解け、化石が剥き出しになっている海岸では1000万年前の化石にも触れました。とてつもない時間の経過と自然の力に押しつぶされそうになりながら砂浜を歩いていると、美しいスイジガイとイタリアからの漂着物を見つけ、頭の中のタイムマシーンから帰還する事ができました。

この日は、あらためて種子島の素晴らしさを体感しましたし、都会では感じられないであろう壮大な時間を旅した一日となりました。

(松田)

平均落札額 72 万円 種子島子牛せり市

	性別	頭数	販売額	今回平均	前年同期対比
中種子	めす牛	105	68,724,000	654,514	-32,060
	去勢	132	102,392,000	775,697	-2,817
	計	237	171,116,000	722,008	-15,366
市場全体	めす牛	273	180,323,000	660,524	-13,223
	去勢	390	298,641,000	765,746	-12,986
	計	663	478,964,000	722,419	-14,474

※単位：円 (税抜き価格、速報値)

種子島子牛せり市が、6月7・8日に種子島家畜市場であり、平均落札額は72万円となりました。最高価格は、めす牛が107万円、去勢が117万円となり、市場は畜産関係者の熱気で包まれていました。

